

上条 報告

第18号

平成22年11月

甲州市教育委員会
☎32-5097

笛吹市芦川町の 見学をしました

笛吹市芦川町（旧芦川村地域）につきましては、『上条報告』第十六号でご紹介したところですが、十月十六日に中村一仁さん、中村一男さん、中村富博さん、中村勇さんの四名、NPO山梨家並保存会の柳通さん、教育委員会・飯島の計六名で見学に行きました。

当日は、柳通さんのお取り計らいで、芦川町に住まいされている建築士・北川洋さんに案内していただき、上芦川集落を歩きました。北川さんは、中芦川集落の古民家で生活されており、「笛吹市芦川町伝統的建造物群保存対策調査」の調査員も務めていました。

芦川町は、芦川に沿って集落が点在するところで、芦川の上流から「上芦川」「新井原」「中芦川」「鶯宿」の四集落があります。

このうち新井原は上芦川から分かれた枝村で、他の三集落ほどの歴史はありませんが、かつては石垣職人や茅葺職人が住んでいたそうで、現在残っている芦川町の景観形成に深く関わってきました。



農啓庵で記念撮影 左から二人目が北川さんで、一番左は息子さん

水路と若彦路の里 上芦川集落

若彦路は、甲斐の古道として古くから人々の往来があり、戦国時代には、甲斐の守りの要所として、関所が設けられていました。上芦川集落は、武田家が若彦路沿いに設けた関所（口留番所）を中心に発展した集落です。関所（口留番所）があった付近には今でも上芦川の道祖神が祀られ、古い石垣も残っています。関所（口留番所）付近には十七世紀に建てられた家があり、今でも生活が営まれています。集落内には水路が巡らされ、石垣と古民家と清らかな水路の景観をつくっています。

笛吹市が作成した「上芦川」兜造民家と石垣の風景ガイドマップより

朝八時に観音堂から出発し、農免道路から県道八代芦川三珠線に入り、鳥坂峠をトンネルで越えるともう芦川町の上芦川集落です。四月にオープンした芦川農産物直売所「おごっそう家」で北川さんと合流し、徒歩で散策に出発しました。

上芦川集落は、南面傾斜地に形成された東西一キロメートル、南北二百メートルほどの東西に長い集落で、中央に古い道（往還）があり、その往還を挟んだ上下（南北）に住宅が造られています。先に記したとおり、もと口留番所があった集落で、番所跡では往還がクランク状に曲げて作られており、その痕跡をとどめています。

集落の入口には諏訪神社が鎮座し、境内の四隅に配された大ケヤキは道を越えた隣家へも枝が伸び、印象深い景観を創っています。そこから百五十メートルも東進すると、番所跡のクランクに着きます。往還以外に番所の痕跡はありませんが、現在番所の跡地に建つ民家は、建築年代が十七世紀という、県内でも最古に属する民家なのだそうです。



往還に接して大屋根があり、迫力です

北川さんから説明をいただきながら、最後に見学したのは、集落の最も上流側の民家で、上条地区の情報館と同様にNPO山梨家並保存会が修理した「農啓庵」でした。ここは、「てんころりん村」という団体が管理しており、一般への貸し出しも行っています。

集落を流れる水は、芦川の上流から分水した東西に走る人工水路からで、集落の東側では人家より高い位置に流れ、西へ進むに従い往還と並行しますが、往還は標高を下げながら西へ向かうため水路は再び人家より高い位置を流れます。この水路から道を直交するように五カ所の分水された南北水路があり、集落全体を潤しています。他の三集落と比べて芦川に接近していないため、これらの人工水路は上芦川集落の大きな特徴であり、集落誕生からの生命線ともいえるものだったのでしよう。

今回は上芦川集落しか見学できませんでした。芦川町の保存対策調査は四つの集落すべてを対象に調査を行っており、各集落が独立した伝建地区となっても不思議ではない残り具合なため、画期的なこ



往還に直交する急な水路



① 諏訪神社 大ケヤキ



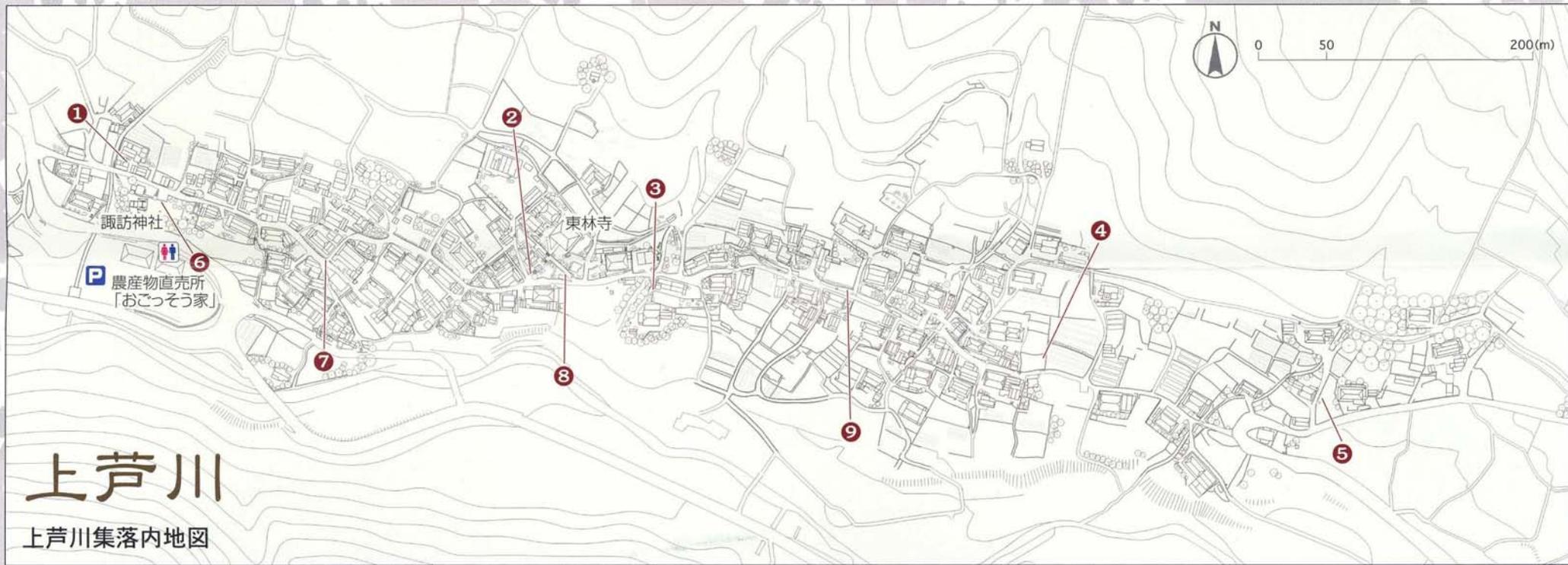
② 東林寺



③ 沢の風景



④ 馬頭観音



⑤ 兜造民家



⑥ 上芦川諏訪神社



⑦ 旧関所付近



⑧ 題目塔



⑨ 水路風景